

# 自治随想

じちずいそう

Vol. 93

若者サイドから見た18歳選挙権



早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員  
徳島文理大学総合政策研究科教授

西川 政善

初歩から学ぶ  
選挙スクール

7月15日、徳島県立科学技術高校において初歩から学ぶ選挙スクールが開催される。県・市選管・県教委はもちろんであるが、当該校の校長・担当教職員そして何よりも300人近い2年生諸君の参加に敬意を表したい。公益財団法人明るい選挙推進協会編の「くらしの中の選挙」をテキストに基本講演、次いで標準サイズの投票場仕様、実際の選挙で使用している投票用紙や投票箱、投開票の流れや点検作業など出来る限り実務通りに行った。



模擬投票の前に、身近な環境問題をテーマにして、この学校を、これからの学生生活をよりよくするための提案を3人の立候補者が演説し最後のお願いをする。エコ党公認「江湖路地仙人」さん、モップ党公認「木札西大志」さん、分別党公認「五味分努」さんが、「エコな生活でニコニコ笑顔」きれいにするのは環境だけじゃない。あなたの心もきれいにし

はそんな難しいものではなく、5分もあれば終わってしまう簡単なことだと思ってくれたと思う。ただ投票することが目的ではなく、自分の住む地域や社会をよりよくするための代表者を選ぶことが選挙であり、自らの未来を託するに相応しい候補者を自ら考えて、自ら選択する過程を大事にして欲しいと思う。極めて有意義な模擬選挙、模擬投票が実際に即して楽しく実施できて良かったと思う。

## Vote at Chuo

私の母校中央大において、東京都内の大学では初めての取り組み「2016年夏の中央大学に期日前投票所を」の呼びかけが始まっている。大学広報紙No.242号の紹介によると、法学部2年Fさんは「2016年夏の参院選で中大多摩キャンパスに期日前投票所を置くことを目標とし、八王子市選挙管理委員会や大学当局に要請し、実現を期している。成功すれば、東京都内では初めての取り組みとなる」と意気込んでいる。

素晴らしいチャレンジ精神だ。彼女は、昨年12月に中大生200人にアンケートを実施。その結果、投票に行かなかった理由で最も多かったのが「投票所が遠かった(住民票を移していない)」「時間がなかった」のふたつ。時間と場所を理由に選挙に行かなかったと答えた学生が無投票の8割以上を占めたことが分かった。つまり、大学生が投票に行かないのは意識の問題でなく、投票環境を整えること、即ち中大に投票所を置くことで投票率アップが見込まれると気づいた。さらにアンケート調査の「中央大学に平日の数日間投票所が設置されたら、利用してみたいですか」の問いに、2000人中166人(83%)が「利用したい」と応えたこと。また、中大多摩キャンパスには2万人以上の学生が集い、八王子市内に23大学、11万人の学生がいる学園都市であること、しかも中大周辺には多くの学生が暮らしていることから、投票所設置の効果が見込めること等を挙げた。同時に、東京都

果が期待できること等を挙げた。同時に、東京都下で初めて実現すればそのインパクトは計り知れず、関東一円は勿論全国に広がるキツカケになるといえるのである。愛媛県松山市の松山大学では全国に先駆けて学内期日前投票所を実現し、今年4月の統一地方選挙では、全国9都道府県12大学内に投票所が設置されている実績を見て、東京での先駆的実施例を目指そうと言っているのである。

こうした中大生グループの活動に対して、八王子選挙管は「慎重姿勢」と学生サイドは当初受け止めた。しかし学生たちは「選挙との信頼関係を築く」ために、自らが選挙の仕組みや18歳選挙権について積極的に勉強しなければならぬと気持ち切り替えて、スタッフ・ミーティングの勉強会、各種イベントに出向いての勉強、地域の選挙啓発ボランティア「八王子市明るい選挙推進協機」と連携してJR八王子駅での選挙啓発活動、八王子市の期日前投票所で開票作業を見学し選挙

を身近に感じ、こうした活動がメディアに取り上げられグループの輪が広がりがつたなど自信につながっているという。現在では、期日前投票所を設置した他地域の8大学に聞き取り調査をし、中大で実現するためには何が必要か当スタッフで分析しているようだ。

### テキスト（適当）な投票概念

市谷の法政大学では、18歳から有権者になると「十分な判断ができないままに、テキストに投票してしまふ」概念が学生から指摘され話題になった。18歳時点で世の中の事柄を理解できないから「安易に投票してしまふ」「自信を持って投票できない」という学生がアンケート回答者（2338人）のうち3分の2であったそうだ。適当に投票する人は少ない方がいいと言っているのである。その一方で、18歳選挙権を歓迎する学生が半分あった。彼らは、若者の意見が反映されると期待している。そうなるためには、先ず政治の側が有

権者の声を政策に反映させた事例、投票の意義をしっかりと示すこと、信念や政策を分かり易く示す必要性を指摘した。

次に自分たちも社会の課題を「自分ごと」として捉え、自分の意見を磨く機会を増やし自分の意見を持つという政治参加の広がり意識した回答があったという。また注目すべきことに若者には今の政治が高齢者優遇と映り、世代間のギャップを意識している。少子高齢化社会で若者は常にマイノリティーの立場を強いられ、この先、自分たちがしっかり年金を受給できるのか不安であり、将来が見通せないというのである。

### 「適当（テキスト）」と「社会的責任」

法政大の学生意識から私は、学生たちは一票を投じる責任を重く捉えているからこそ、判断力に自信が持てないと思っただけで、だから適当投票と社会責任は矛盾しないと思う。従って、18歳選挙権でどのような可能性が広がるのか、必要な環境

整備は何かなど議論を広げ、国・地域社会・家庭・教育の場などでの対応にしっかりと目を向ける必要を感じる。

### 選挙に関し若者が疑問・問題に感じたこと

本稿の結びに県選挙管理委員会に纏めた項目を今後の参考のために以下掲載しておく。

- ・選挙権年齢の引下げにより、判断能力の備わっていない若年層の投票率が増えたところで意味があるのか？
- ・ひたすらに投票率向上だけを訴えているところに疑問を感じる。本質は別のところにあるのでは？
- ・若年層の投票率低下が深刻な問題であることは理解できたが、選挙の大切さをうまく伝えられない大人側にも問題があるのでは？
- ・どのように候補者を選べば良いのかという教育を行っていく必要があるのでは？
- ・選挙運動は、ネット選挙など近代化の傾向が見られるが、投票に関しては変化が見られない。より

効率の良い方法を検討することが必要ではないか？

- ・投票しないというのも重要な意思のひとつ。
- ・いきなり選挙権を持つても、選挙や政治に関する学習が十分でなければ、権利を行使するにも無理がある。
- ・1つ1つの選挙で、何が議論されているのかを明らかにしていかなければ、若年層の投票率は改善されないのでは？
- ・二十歳になれば選挙権が与えられるが、政策について学ぶ機会が同時に与えられる訳ではない。自らが積極的に学ぶ必要がある。
- ・低い投票率の中で選ばれた候補者が、本当に地域や国の代表として適切？
- ・政治や選挙に関する早期教育だけでは、関心が高まると思えない。若者が政治の論点や政党の特徴などを知ることのできる機会を更に設ける必要がある。
- ・低い投票率の原因は、選挙に対する意識の低さであるが、その原因は選挙人でなく候補者側にあるのでは？